

平成31年度 唐津市立加唐小中学校 学校評価計画

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふるさと魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成 ー地域の特性を生かした主体的・対話的取り組みを通してー	①地域とともにある学校づくり (体験活動を通じたふるさとの魅力を発見・発信する活動) ②離島へき地教育の推進 (児童生徒の実践的コミュニケーション能力を育むための研究)

●は共通評価項目、○は独自評価項目

3 目標・評価

①地域とともにある学校づくり(体験活動を通じたふるさとの魅力を発見・発信する活動)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・アンケートで「学校行事や体験活動に楽しく参加できている」と回答する児童生徒を80%以上にする。 ・アンケートで「将来の夢ややりたいことがある」「その実現のために、今やるべきことは何かを考え、努力している」と回答する児童生徒を80%以上にする。	・学校行事において、自分にできることを考えて実行に移すことができるように支援する。 ・ゆうき会活動において、児童生徒の意見や主体的な活動を尊重することで、達成感や自己肯定感を高める。 ・事前に、話を聞いてみたい職種等についてのアンケートを実施し、生徒の興味・関心が高まるような職業講話を企画する。 ・外部講師の話聞くことで、様々な人との関わりを通して、働く意義や喜びを感じ取らせる。	キャリア教育
	●健康・体づくり	運動習慣・食習慣の改善や自己管理能力の育成	・アンケートで「週3日以上、15分程度の運動を継続した」と回答する児童生徒を100%にする。 ・アンケートで「帰宅の際や食事の前に丁寧に手を洗う」と回答する児童生徒を100%にする。 ・食の大切さを理解し、自分の健康を保つために必要な食べ物を選ぶことができるようにする。	・昼休みは、できるだけ多くの教職員が関わり、児童生徒と運動場や体育館で運動するように奨励する。 ・年間を通じて手洗い・うがいの大切さを啓発し、正しい手洗いの仕方について保健指導を行う。 ・給食についての反省会を行い、食生活の見直しをさせ、食の大切さを伝えていく。	体育主任 食育給食
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	規範意識、モラルの高揚	・会議の議題を協議と報告とに明確に分けることで、会議時間の効率化を図る。 ・毎週水曜日に定時退勤日を設定し、職員は17:00、管理職も17:30には退勤する。 ・報・連・相を密にし、小さなことでも職員及び管理職に伝えることで、情報の共有化を図る。 ・教育センターの研修講座に管理職も含めて全員1回は参加するようにし、継続して指導力向上を図る。	・会議資料はペーパーレスとし、事前に資料(データ)に目を通しておく。 ・自分の仕事だけでなく、他の職員への協力を全職員が心がけるよう、管理職が率先して声かけを行う。 ・県内外で行われている様々な研修を紹介し、指導力向上に努める。	両教頭
	○学校経営方針の周知	学校教育目標、学校経営ビジョン、本年度教育の重点の周知と実践化	・アンケートで「加唐小中学校の学校教育目標を知っている」と回答する教職員を100%にし、いつでも児童生徒、保護者及び島民に対して説明できるようにする。	・学校便りや学校ホームページでの広報活動や、育友会総会、保護者懇談会、学校評議員会などの場を活用して、周知を図る。	両教頭
	○開かれた学校づくり	学校と地域の理想的な関係づくり	・月に1回は、保護者や島民に公開する授業参観や学校行事を企画する。 ・保護者、島民を含む年間の来校者を300名以上とする。 ・武寧王生誕祭、島内除草作業などの島内行事に、教職員は積極的に参加し、島民としての役割を果たす。	・授業参観や学校行事を周知し、多くの方が学校に来校できるようにする。 ・教職員は、島民の一員としての自覚をもって、積極的に島内行事に参加するように心掛ける。	両教頭
	○開かれた学校づくり	学校情報の積極的な発信	・学校便りを毎月1回発行し、島内全戸に配布することで、学校の様子を伝えていく。 ・学校ホームページの更新を小まめに行い、閲覧者が見たい、知りたい情報を分かりやすく伝えていくようにする。 ・小中学校それぞれで毎週1回学級だよりもしくは学年便りを発行し、保護者に対して学校での様子や担任の思いを伝えていく。	・月1回発行の学校便りを島内全戸に配布する。 ・月に1回松島に職員が渡り、全戸に学校便りを配布し、学校の様子を知らせる。 ・ホームページでの情報発信を積極的に行い、内容も更新していく。 ・担任が発行する学級便り(学年便り)を週に1回は発行する。	両教頭

②離島へき地教育の推進(児童生徒の実践的コミュニケーション能力を育むための研究)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌
教育活動		言語活動の充実とコミュニケーション能力の育成	・校内研究の主題である「実践的コミュニケーション能力の育成」を目指した授業実践を全職員が行う。 ・スピーチタイムやテレビ会議システムを活用した合同授業等で話し合いの場を設定する。また、児童生徒が自己評価できるようにする。 ・テレビ会議システムや電子黒板等の利活用を推進する。	・児童生徒一人一人に応じた目標を設定することで、その達成を目指した授業ができるようにする。また、テレビ会議システム等を活用した授業では、職員間で授業公開をすることで、指導力の向上を図る。 ・全校スピーチタイムを月1回程度、他校との合同スピーチタイムを月2回程度設定する。また、ふりかえりシートを活用して、自己評価させる。 ・ICT利活用研修を実施し、全職員がテレビ会議システムや電子黒板を使うことができるようにする。	研究主任
	●学力向上	基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成	・12月実施の県学習状況調査において、全ての学年・教科で、県平均を上回るようにする。 ・アンケートで「普段の授業において、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図っている」「思考力、判断力、表現力を育成するために、書く活動や説明する活動を位置付けて、指導をしている」と回答する教職員を80%以上にする。	・家庭学習において復習的な課題を課すことで、学習した内容の確実な定着を図る。また、自学を推奨し、興味がある内容や苦手な内容を進んで学習することができるようにする。 ・毎時間的小テストや単元の終わりに確認テストを実施するなど、定着状況を把握し、必要に応じて補充学習を実施する。 ・各学年や児童の実態に応じた書く活動を単元の中に計画的に位置づける。また、他学年や他校の児童生徒に発表する活動を設定し、表現力を育成する。	学力向上
		指導方法の工夫・改善	・アンケートで「授業が楽しい」、「授業内容が分かる」、「授業でできるようになったことがある」と回答する児童生徒を80%以上にする。 ・アンケートで「授業において、児童生徒の学力向上のために指導方法の工夫・改善を図っている」と回答する教職員を80%以上にする。	・極小規模校のメリットを生かして個別の指導計画を作成・活用し、個の能力に応じたきめ細かな指導を行う。 ・学習目標の掲示や学習の振り返りを行うなど、唐津市学力向上アクションプランを基本とした授業づくりを徹底して行う。	学力向上
	●心の教育	教育活動全般における道德教育の充実	・各学級において年に1回以上、ふれあい道德を含めた授業公開を行う。 ・道德の授業だけでなく、全教科においても道德的な価値に触れ、道德教育を充実を目指す。 ・アンケートで「周囲に対して思いやりをもって接することができる」と回答する児童生徒を80%以上にする。 ・年1回は、スクールカウンセラーと担任による授業を実施し、自己理解、他者理解を内容としたものを含め、よりよい人間関係を築く能力を付けさせる。	・道德の授業については、できるだけ教員同士も相互に参観するように努め、互いに授業力の向上を図ることができるようにする。 ・道德の時間を要(かなめ)としながら、各教科、特別活動など教育課程全般で道德教育の推進を図ることができるよう教員間の共通理解を図る。 ・教育相談の内容とも関連させながら、スクールカウンセラーによる授業を実施する。 ・毎週1時間の道德の時間を大切に、児童生徒と共に考えを共有する時間を持つ。	道德教育
	●いじめ問題への対応	児童生徒及び教職員の人権意識の向上	・「命の教育」についての授業を年に1回以上行い、自他共に命を大切にする児童生徒を育てる。 ・人権・同和教育の視点に立ち、小中合同で「ほんわかタイム」(人権タイム)を年間5回実施し、児童生徒の人権意識の高揚を図る。 ・人権・同和教育の授業実践に関する職員研修や授業研究会を行い、各教科、道德、学級活動などと関連させながら「心を耕す」取組へと広げていく。	・ふれあい道德などの機会をとらえ、道德を中心に心の教育、命の教育を実践する。 ・「ほんわかタイム」においては、講話だけでなく、資料提示の工夫や体験型活動の導入などの工夫を行い、児童生徒の人権に対する関心を高め、意識の高揚につなげる。 ・教職員の人権意識向上を目的とした研修会を複数回行い、児童・生徒、地域住民も対象にした講演会等を開催する。	人権・同和教育